

観光について

細谷 和宏

今月は私の中国観光についてお話したいと思います。世界遺産も数多く行けたし、何より留学生の交流が図れたことが楽しい思い出です。とにかく安い方法を選択して計画するので未明4時出発なんてこともざらにあり、宿は一泊800円なんてこともざらにありました。

そんな中、とりわけ印象に残っている個所をお話したいと思います。

1 平遥 (へいよう ping yao)

太原から南西へ列車で約2時間。太原市から約100キロのところにあります。明代(1370年~)の城壁がほぼ完全な形で保存されている中国唯一の街として世界遺産に登録されています。多くの建物が公開されていますが、何が驚いたかという、それら伝統的な貴重な建築物に人々が普通に暮らしていることです。高さ約10m、ほぼ正方形全長約6キロに渡る城壁の中で今でも普通にその当時さながらの生活をおくっている人が多数いるのです。This is China. といった感じの石畳の街並みがどこまでも続きます。太原を訪れたらぜひ行ってほしい観光地のひとつです。

平遥駅に着いたわれわれは最初分からず、個人タクシーに乗ってしまいましたが、入口まで歩いて30分もかからなかったと思います。留学生6名で行ったのですが、乗用車にいいから乗れという中国人のことばで乗り込み、女の子を膝の上に乗せ、頭を折り畳みみんな荷物のように乗車しました。

列車の中では初めての留学生同士の旅行ということもあり、お前の国には地下鉄があるかとか、冬は寒いかなどなどいろいろな話をして行きました。外国人の団体が珍しいのかいつしか列車の中はわれわれを中心に中国人の輪ができていました。わたしはこんな素敵な留学生活がいつまでも続くといいなと思ったと同時にいつかはこんないい仲間と別れるときがくるんだと思うと涙ができてきました。



平遥内部 石畳がどこまでも続く

2 大同 (だいどう da tong)

太原の北部、快速列車で約6時間の内モンゴル自治区と接する小さな地方都市です。大同では何を見てほしいかと言えば、なんととっても世界遺産の雲崗石窟 (うんこうせきつ yungang shiku) です。

約1キロに渡る岩山に約50窟の洞窟があり、彫像は高さ数センチのものからもっとも有名な石仏では17mにも及ぶものまで約5万体の壮大な石窟です。

今では入口周辺に壮大な前庭みたいな公園施設を建築して石窟周辺も舗装されハイヒールでも歩けるような施設になって、電動カートも走っていますが、7年前に訪れたことがある留学生に聞いたところ、当時はまったくそのような施設もなく歩くのも登山のように進んで行ったといいます。

実は、私は機会があれば、このことについては述べたいと思っているのですが、このように秘境が便利になることがいいことなのでしょうか。やっとの思いでたどり着き、壮大な当時の建造物を見上げる、これが旅行の醍醐味なのではないかと思うのです。自分の足で歩き、汗をかいてやっとの思いでたどり着いたらそこに信じられない風景が現れる、これが旅行の素晴らしいところでは

ないかと思うのです。中国は今至るところの観光施設をこのような環境にしようとしているようですが、まったくバリアフリーを意識した構造では根本的でないのです。このことについては私見をいつかレポートしてみたいと思います。

大同は、当然普通一泊以上の旅行となりますが、私は幸運に恵まれ中国人の友人が車を出してくれて、早朝から高速道路で現地に向かい日帰りで見えてきました。高速道路の距離だけでゆうに東京、名古屋間を超える距離です。しかも同行の中国人が博物館の学芸員で石窟の入園料約3000円が顔パスで免除になりました。ちなみに中国では顔パスを含め、コネでなんとでもなる社会構造であることをいたるところで感じます。入学、就職等では裏で多額の現金が動くとも聞いています。話が逸れましたが、加えて日本語学科卒業の中国人から日本語ガイドを受けることもでき、至れり尽くせりの一日でした。

また、もし今後大同を訪れる方がいらっしゃったら、私たちは時間がなかったので行けなかった懸空寺（けんくうじ xuankongsi）を訪れたらいいと思います。当寺は6世紀に造られた岩壁に築かれた仏教寺院で、ここは細い足場の岩山を進んで行くところなので迫力満点だそうです。ぜひ行ってみてください。

3 万里の長城を含めた北京周辺

言わずと知れた great wall です。もちろん世界遺産です。私は過去に観光で北京を訪れたときに一度当地は訪れたことがありますが、そのときは北京のホテルから日本語ガイド付の一日観光マイクロバスツアーバスで1万円以上したと思います。今回は留学生と電車を乗り継いで行きました。電車賃は数百円です。中国語が満足にできない者だけで行ったので不安だったのですが、なんとか行けました。このぐらいの語学力でなんとかなるのだったら、例えば現地語かポルトガル語しか通じない南米の知らない国にひとりで行ってもジェスチャーでなんとかなるのではと思いました。

今回はカウントダウンを北京で迎えたいということでついでに1月1日に万里の長城へ来ました。中国では旧正月が正月なので、観光客はあまり多くはありませんでした。前回はすごい霧で1m先が見えないくらいの悪天候でしたが、今回は快晴に恵まれ万里の長城がずっと先まで続くさまを見ることができました。

他にぜひ北京に来たときに訪れてほしいところは、明清時代の皇帝が五穀豊穡を願って祭事を行った天壇（てんだん tiantan）です。僕は誰かを北京を案内するとき、故宮か天壇かを迫られたら迷わず天壇に行きます。ここももちろん世界遺産です。他にもいわゆるタウンエリアも北京ではあちこちにあり、有名な王府井（わんふうちん 東京の銀座みたいなところ）や南羅鼓巷（原宿みたいなところ 若者が食べ歩きながら多くの小さなお店を見て歩くようなところ）周辺などがお勧めですが、アート系がお好きな方はぜひ絶対に行ってほし

いのが798芸術区です。市街地からはちょっと離れますが私が特にお勧めしたいところです。若い新鋭のデザイナーが、以前には大きな工場群であった跡地（おそらくまだ一部工業用地として使用中）の倉庫をギャラリーにして作品を展示し、それらを無料で多く見られます。中国の観光地では買えない一品ものの小物も多数あります。イメージとして横浜赤レンガ倉庫が何百もあるといった感じでしょうか。



万里の長城 山のずっと先は山西省の先まで続く

他にも多くの観光地を訪れ、紹介したいところがたくさんありますが、紙面の都合上以上で終わります。今後、卒業前に留学生と上海周辺や知る人ぞ知る中国の秘境、私は死ぬまでに絶対に訪れたいと思っている九寨溝や、パンダの野生生息地四川省へも行く予定がありますので機会があれば紹介したいと思います。